

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

札幌国際大学

令和5年3月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III	総合評価	15
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：札幌国際大学 人文学部現代文化学科
 人文学部心理学科臨床心理専攻
 人文学部心理学科子ども心理専攻
 スポーツ人間学部スポーツ指導学科

大学名：札幌国際大学大学院 スポーツ健康指導研究科

- (2) 所在地：北海道札幌市清田区清田4条1丁目4-1

- (3) 教職課程履修学生数及び教員数 (令和4年5月1日現在)

学生数：札幌国際大学	330名／大学全体	1574名
人文学部現代文化学科	7名／学科全体	113名
人文学部心理学科臨床心理専攻	10名／専攻全体	273名
人文学部心理学科子ども心理専攻	141名／専攻全体	157名
スポーツ人間学部スポーツ指導学科	172名／学科全体	333名
札幌国際大学大学院		
スポーツ健康指導研究科	2名／研究科全体	9名
教員数：教職課程に関する科目担当	11名／大学・大学院全体	47名

2 特色

札幌国際大学は、教育理念に「建学の礎」として「真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間を育成する」「理想を求め、明日の地域社会を拓く創造性豊かな人間を育成する」「日本人としての自覚と誇りを持ち、自らの責任において行動する国際人を育成する」を、また、「教育の基本的考え方」として「個性を尊重し、多様な生き方に応える生涯学習を推進する。」「学ぶ楽しさや表現する喜びを通し、真理を探究する心と豊かな感性を養う。」「日本の歴史や文化を理解し、世界の動きに目を向け、すすんで社会に貢献する態度を養う。」を掲げている。

人文学部現代文化学科は、言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めることで、グローバルに活躍できる人材を育成している。中学校教諭一種免許状（社会）及び高等学校教諭一種免許状（公民）の取得が可能である。

人文学部心理学科臨床心理専攻は、こころの働きや仕組みなど心理学の専門知識を身に付けることで、人のこころを理解し援助につながる視点を養っている。令和4年3月31日以前に入学した学生については、高等学校教諭一種免許状（公民）の取得が可能である。

人文学部心理学科子ども心理専攻は、心理学をベースに教育や保育を学ぶことで、子どもをより深く理解し、適切な支援ができる能力を身に付ける。また、自然に囲まれた本学の広大なキャンパスや施設を利用し、子どもたちと関わることで多くのフィールドが用意され、実習だけではなくボランティア活動を通して実践的に学ぶことができる。こうした経験に裏付けられた知識と技術、人間力を備えた質の高い人材

を養成している。幼稚園教諭一種免許状の取得が可能である。

スポーツ人間学部スポーツ指導学科は、スポーツと健康に関する専門知識・技能を学び、学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行える人材を育成しており、また、地域社会の健康・スポーツに関する諸課題を解決する基礎的な力を身に付けることを目指している。中学校教諭一種免許状（保健体育）及び高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得が可能である。

大学院スポーツ健康指導研究科は、スポーツ健康領域における専門性の高い理論、指導技法および実践法を修得し、少子高齢化社会におけるスポーツを通じた健康の維持および増進に寄与する高い実践能力を有するスポーツ健康指導者となることを目的としている。中学校教諭専修免許状（保健体育）及び高等学校教諭専修免許状（保健体育）の取得が可能である。

なお、人文学部心理学科子ども心理専攻は、平成 20 年度入学生から、また、スポーツ人間学部スポーツ指導学科は、設置された平成 21 年度入学生から、それぞれ免許状取得が可能となった。大学院スポーツ健康指導研究科は、設置された平成 28 年度入学生から、専修免許状取得が可能となった。人文学部現代文化学科は、令和 4 年度から募集停止となった。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

札幌国際大学は、「教育理念」を踏まえ、「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して、次のように卒業認定・学位授与の方針（以下、DPという）を定め、これらの基準に到達するように編成された各学科、各専攻の教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学位規則に従い学士の学位を授与することとしている。

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1) 各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

(DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

(DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

教員免許状を取得可能な各学科・専攻及び研究科（以下、各学科等という）においても、それぞれ同様に、各項目に関してDPを定めている。

なお、大学院スポーツ健康指導研究科では、次のようにDPを定めている。

「スポーツ健康領域における専門性の高い理論、指導技法および実践法を修得し、少子高齢化社会におけるスポーツを通じた健康の維持・増進に寄与する高い実践能力を有するスポーツ健康指導者を養成する」という本研究科の目的を達成するため、下記の通り修士修了までに修得すべき能力を定める。これらの能力は、研究科の所定単位修得と課題研究論文審査および試験の合格により、その達成を判断し、学位規則に従い修士（スポーツ健康指導）の学位を授与する。

教育目標：修了までに修得すべき能力

- ①スポーツ健康指導者に不可欠な専門知識
- ②スポーツ健康指導者としての指導・実践理能力と人間形成に関わる思考や経験知
- ③子どもおよび高齢者を対象としたスポーツ健康指導の実践能力
- ④研究テーマを考え、研究を行う一連の過程で培われる能力

開放制の本学において、DPの表現には教職課程で学ぶにふさわしい学生像も含まれて

いる。

また、札幌国際大学は、令和3年度末にDPの改訂がなされたときに合わせて、DPで示した資質・能力を学生が身に付けることができるよう、「初年次教育」「教養教育」「専門教育」「教育方法」「教育方法・評価方法」の各項目に関して、次のように教育課程編成・実施の方針（以下、CPという）を定めている。

（CP1）【初年次教育】

高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教科科目として初年次教育科目を配置する。

（CP2）【教養教育】

幅広く深い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。

（CP3）【専門教育】

専門教育において、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーに基づき専門性を身に付けることができるように、順次性のある体系的な科目配置を行う。

（CP4）【教育方法】

コミュニケーション能力や他者と協働する能力の向上のためPBLやグループワーク、フィールドワーク等のアクティブラーニング型の科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現する。

（CP5）【教育方法・評価方法】

GAP制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。

各学科等においても、それぞれ同様に、各項目に関してCPを定めている。

大学院スポーツ健康指導研究科では、DP達成のため、またスポーツ健康領域における専門性の高い理論、指導技法および実践法を修得し、少子高齢化社会におけるスポーツを通じた健康の維持及び増進に寄与する高い実践能力を有するスポーツ健康指導者を養成するという研究科の目的を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施するとして、CPを、教育課程4項目と成績評価について定めている。

令和2年度には、教員養成の目標をより具体化した本学の教員育成像を、当時の本学のDP及び道教委の教員育成像を踏まえ、次のように策定した。

学科等	求める教員像
本学 (右各項目中の波線部が本学の独自性)	① 教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情および <u>自省する姿勢</u> を、常に持ち続ける教員 ② 教育の専門家として、実践的指導力や <u>技能</u> および専門性の向上に、 <u>自主・自律的に</u> 取り組む教員 ③ 学校作りを担う一員として、地域等とも連携・ <u>協同</u> しながら、問題解決に取り組む教員
現代文化 学科	① 教科教育者として、強い使命感を持ち、生徒への深い教育的愛情を常に持ち続ける教員 ② 社会科・公民科教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員 ③ 社会科・公民科教育の教育者として、実際の地域等と連携・協働しながら、課題解決にも取り組む教員
臨床 心理 心 専攻	① 教科教育者としての強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける教員 ② 心理学の基礎知識と技能を活かし、専門家として実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員 ③ 公民科教育の教育者として、地域等と連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員

心理学専攻	① 保育者としての強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける教員 ② 心理学の基礎知識と技能を活かし、専門家として実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員 ③ 遊びと子どもの育ちを支援する幼稚園づくりを担い、地域等とともに連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員
スポーツ指導学科	① 保健体育科教育の専門家としての情熱とともに、強い使命感・倫理観を常に持ち、生徒への深い教育的愛情を注ぎ続ける教員 ② 保健体育科教育の専門家として、実践的指導力の向上に主体的に取り組む教員 ③ 保健体育科教育の専門家として、地域におけるスポーツの振興・育成・発展を担いながら、地域等と連携・協働して、課題解決に取り組む教員 ④ 学校作りを担う一員としての役割を自覚し、スポーツパーソンシップにのっとりチームで教育実践する教員
幼児教育保育学科	① 子どもの安全を守るための適切な配慮ができる教員 ② 子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている教員 ③ 子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる教員 ④ 保育者の社会的使命を自覚し、責任ある行動を取ることができる教員 ⑤ 教育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている教員 ⑥ 地域の国際化をふまえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている教員 ⑦ 地域社会の重要性を理解し、保護者だけでなく地域社会に根ざした実践を構築できる教員 ⑧ 教育・保育現場における教育者同士の協力の必要性を理解し、教育者として求められる知識や技能を、自らの努力および仲間との協同を通して向上させていける教員

本学のDPと北海道教育委員会の教員育成像との共通点をベースに、独自性を下線部のように打ち出している。

学生には教員養成の目標と教員育成像を示し、教職課程教育を計画的に実施している。

人文学部現代文化学科は、言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めるため、学科基礎科目及び学科専門科目をもってカリキュラムを編成している。

このうち、教科に関する科目はそのほとんどが学科基礎科目から指定されており、学科の学生であれば、広く学ぶ科目群となっている。

心理学科子ども心理専攻は、心理学科の一専攻として、心理学領域における基礎的知識を修得する学科基礎科目と、幼稚園教諭一種免許、及び保育士資格取得を柱とした子ども心理専攻専門科目によってカリキュラムを編成する。専攻科目は、幼児教育・保育領域の基礎知識の修得から、実践を通して修得した知識、技能の活用能力を高められるように体系的に編成されており、付属認定こども園や近隣保育施設等におけるフィールドワークなどの体験的学修を重視している。

〔長所・特色〕

臨床心理専攻では、心理学領域及び臨床心理学領域の基本的な知識と技能に基づいた教員育成を目標としている。これらの知識と技能を持って児童に接することで、様々な角度から児童を理解し、児童の健全な成長を支援できると考えるからである。教職課程教育の目的や目標は専攻内の会議で共有され、また必要な情報は適宜教員間で連絡を取り合い、専攻全体として取り組んでいる。

〔取り組み上の課題〕

令和3年度末にDPの改訂がなされたことと、北海道教育委員会の教員育成像が令和4年度末に改訂される予定であることを受けて、令和5年度に本学の教員育成像を改訂する必要がある。改訂後には年度途中ではあっても学生へ改めて示す必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） CAMPUS GUIDE 2022 p53-58, p63
- ・資料1-1-2：スポーツ健康指導研究科スポーツ健康指導専攻修士課程 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） CAMPUS GUIDE 2022 p66
- ・資料1-1-3：教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） CAMPUS GUIDE 2022 p53-59, p63
- ・資料1-1-4：スポーツ健康指導研究科スポーツ健康指導専攻修士課程 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） CAMPUS GUIDE 2022 p66
- ・資料1-1-5：札幌国際大学 札幌国際大学短期大学部 50周年記念誌 [1969-2019]
- ・資料1-1-6：札幌国際大学HP 教員養成の目標
- ・資料1-1-7：教職課程委員会資料 2020年12月21日

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員及び高等学校などの現場経験のある教員を配置している。本学の教職課程の運営に関する全学組織である教職課程委員会は、大学・短大における教職課程の改善・充実に積極的に取り組み、質の高い教員養成を行うために設置され、教職課程の質の向上に取り組んでいる。構成員である教員と事務職員が協働して、関係する学部・学科等の教職課程担当者と役割を分担している。教職課程委員会では、年 1 回 3 月に『教師・教育実践研究』を発行し、教職担当者等による教育ないし教育実践に関する論文や実践報告をHPに掲載している。

教職課程教育を行う上での施設・設備は整備されており、1号館4階に「教職相談室」を設置しているほか、令和3年度には情報教育センターの自習スペースを改装し、PCを入れ替えるなどしてICT Commonsと名称を改めるとともに学内のWifiも増強するなど、学生がICTを活用できる教育環境の整備が進んでいる。また、令和5年度新設する教職課程におけるICT専門科目「ICTを活用した教育」のために電子黒板を整備し、対象となる令和4年度入学生がノートPCを所持していることから、当該科目においてノートPCでロイロノートを用いて電子黒板との組み合わせによる活用方法を実践するといった、小中学校でよく行われている使い方ができるように準備をしている。令和5年度は、学校現場で使用しているものと同様のスペックをもつ実物投影機を導入し、より学校現場の実践に近い経験ができるようにと計画している。

図書館には、現在道内で使用されている現行学習指導要領に基づく中学校及び高等学校の保健体育の教科書を網羅的に整備した。

教職課程担当者向けに委員会として情報収集し、「教職情報」を作成・配布することで情報共有を図っている。

全学的な取り組みであるアドバイザーへ学生が気軽に相談できる「オフィスアワー」や半期に1度実施している「授業評価アンケート」は、教職課程の質向上にも生かされている。

現代文化学科では、教職履修者の情報については、学科会議などで交流している。加えて中学校・高等学校の現場経験があり、かつ一定の研究業績をもつ者を複数名採用し、その他の専門分野の教員と併せてバランス良く配置し、教職を志す学生をきめ細やかに指導している。

心理学科子ども心理専攻では、幼児教育・保育施設などの現場経験があり、かつ一定の研究業績を持つ者を複数名採用し、心理学やその他の専門分野の教員と併せてバランス良く配置している。幼稚園実習指導は、幼稚園教諭経験者や現職の幼稚園園長を中心に4名で担当し、幼稚園実習の巡回指導は、子ども心理専攻教員全員が分担し行っている。

子ども心理専攻の中に実習委員会を組織し、子ども心理専攻所属の教員全員が構成員となっている。ここでは専攻独自の实習内規を定め、実習に関わる方針や、個々の学生の情報共有などを随時行っている。

〔長所・特色〕

開放制の本学において、教職課程の自己点検・評価に関するFDを令和3年度に3度に

わたり全学規模で実施したため、現在、教職課程の自己点検・評価は全学的な理解を得られた上で進めている。令和4年度は、教職課程委員会の構成人数を増やし、教職課程の自己点検・評価に向けた体制を整備した。また、教職課程の自己点検評価報告書は、全学的な自己点検・評価とは別に進めることで学内の整理ができています。

臨床心理専攻では、専攻の特徴を生かし、児童に関する様々な心理領域を学べるよう科目が構成されている。例えば、発達心理学、教育・学校心理学、障害者・障害児心理学等、児童の成長に特化した専門的な科目を多く配置している。また、児童の心と行動を専門とした教員が豊富に在籍し、学生が児童を理解し支援する姿勢を学べる体制が整っている。希望する学生が確実に教職課程カリキュラムを履修できるよう、専攻専門科目を調整し時間割を作成している。

〔取り組み上の課題〕

全学的な自己点検・評価は年度が改まって完成することから、令和4年度は教職課程の自己点検・評価報告書が先にできることになり、若干のタイミングのずれがある。次回からはこのタイミングを合わせることで、全学的な自己点検・評価とよりよい連携がとれるようにしていく方向で検討しているところである。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-2-1：札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部教職課程委員会規程
- ・資料1-2-2：『教師・教育実践研究』創刊号～第6号

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

札幌国際大学は、令和3年度末にDPの改訂がなされたときに合わせて、「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・関心」、「態度」の各項目に関して、次のように「入学者受け入れの方針」（以下、APという）を定め、自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじ、地域社会の発展に寄与することができる国際人を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れることとしている。

(AP1) 本学での学修に必要な基礎学力を有している人。【知識・技能】

(AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】

(AP3) 地域社会や国際社会の諸問題について問題意識を持ち、それを論理的に説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】

(AP4) 希望する専攻分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。

【意欲・関心】

(AP5) 目的を達成するために継続的に活動することができる人。【態度】

各学科等においても、それぞれ同様に、各項目に関してAPを定めている。

進学説明会やオープンキャンパス、高校訪問などの際には、こうした各APを踏まえて学生募集を行うとともに、APを踏まえた選考も実施している。

なお、教職課程ガイドのパンフレットを作成し、学生募集の際に活用している。

合格手続後には入学前課題を課し、大学教育への円滑な接続を図っている。

入学生や在学生にはAP、DP、CPを踏まえた上で、春学期の授業前に教職課程の履修についてのガイダンスを実施している。一部の学年に対しては秋学期の授業前にも実施している。

また、DPやCPを踏まえて、大学では、中高の教職課程履修の条件を次のとおり設定し、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続している。

- 1) 原則として、教育実習を中学校又は高等学校等で実施できる者(各自で教育実習校を確保する)であること。
- 2) 教職適性等から履修を認めない場合もあること。
- 3) 研究生・科目等履修生の教職に関する科目「教育実習(事前事後指導)」及び「介護等体験」は認めないこと。
- 4) 教育実習を修得していない者の「教職実践演習」は認めないこと。
- 5) 中学校、高等学校の免許については以下の条件が設けられています。
 - ① ある学期において、GPAの得点が1.0ポイント未満の場合は、それ以降の学年・学期における「教育の基礎的理解に関する科目」の履修を認めないこと。
 - ② 大部分の「教育の基礎的理解に関する科目」は、卒業に必要な単位数に含まれないこと。

教職履修カルテは半期に一度提出・点検し、教職指導に資するべく活用している。

心理学科子ども心理専攻は入学定員50名であるが、平成30年度以降5年間定員を充足しておらず、定員充足率は64%（令和3年度）から、90%（令和2、4年度）の間で推移している。また幼稚園教諭免許状の取得状況は、平成29年度から令和3年度の5年間の卒業生の平均が72%である。

幼稚園教諭、及び保育士を目指す学生には、1年次から教職履修カルテの作成を義務づけており、期別ごとに担当教員がチェックし指導を行っている。

なお、大学院スポーツ健康指導研究科では、次のようにAPを定めている。

「スポーツ健康領域における専門性の高い理論、指導技法および実践法を修得し、少子高齢化社会におけるスポーツを通じた健康の維持および増進に寄与する高い実践能力を有するスポーツ健康指導者となることを目的とする人を受け入れます。」

大学院スポーツ健康指導研究科では、中学校及び高等学校の学習指導要領の保健体育と、修得したスポーツ健康領域に関する体系的な理論、指導技法および実践法からの視点に基づき、学校教育を通じたスポーツ健康領域の周知に大きく貢献することや、喫緊の課題である子どもの体力向上へ大きな貢献を果たすことを目指すこととしている。

〔長所・特色〕

臨床心理専攻では、学生の確保に関して、令和3年度までの入学案内やオープンキャンパス等では中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）の取得が可能であることを説明していたが、令和4年度からは取得ができなくなった旨を必要に応じ説明している。また、学生の育成においては、臨床心理専攻のDPに則り、心理学的な姿勢や能力を持つ学生の教育に努めている。

〔取り組み上の課題〕

令和3年度以前入学の中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）の取得希望者は、令和5年度には過去履修した教職科目が開設されないことから、単位は必ず修得しなければならず、もし修得できなかった場合はどのようにするか検討を要する。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-1-1：札幌国際大学パンフ2023
- ・資料2-1-2：札幌国際大学HP
- ・資料2-1-3：2022 STUDY GUIDE

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

アドバイザーやキャリア支援センターにより、面談等を通じて学生の状況の把握に努め、学生のニーズや適性に基づいたキャリア支援を行っている。また、授業や学内ポータルサイトを活用して教職に関する模擬試験や研修会への参加といった情報を提供している。

さらには、教員採用試験対策として教職教養や一般教養に関する教職特別ゼミを実施し、面接試験の直前には集中的に指導している。

スポーツ指導学科では、正規採用となった卒業生や道教委職員による特別講義を実施し、年齢の近い先輩の講義により教職の魅力やイメージを把握させるとともに、学校現場や教育委員会における ICT の活用の取り組みの実際について学ぶなど、多様な人材と連携を図ることで、学生は、直近の学校教育の状況を学ぶことができている。また、各都道府県の採用試験情報を、業者の情報を活用しながら、随時、教員採用試験受験予定者に伝えている。

現代文化学科では、中学校・高等学校の現場経験があり、一定の専門性をもった教員が、きめ細やかな面談等を通じ、教職志望の学生のニーズや適性に基づいて支援を行っている。

なお、教員免許状の取得数や教員への就職数など教員養成の状況については、HP で公表している。

〔長所・特色〕

臨床心理専攻では、心理学の知識と技能を持った、専門性の高い教員を輩出するため、協定のある大学院（上越教育大学大学院）への進学を支援している。

心理学科子ども心理専攻は、3年次に保育実習、4年次に幼稚園教育実習を行っている。その前の準備的な位置づけとして、1、2年次から幼児教育や保育等の現場でフィールドワークを行う科目を開講し、早い段階から子どもや保育者の観察機会を設け、担当教員による事後指導も丁寧に行っている。

各実習指導では、実習先となる幼稚園や保育所、施設等の職員を招き、実習生としての心構えや実習ポイントなどの講演の機会を設けている。

4年次秋学期の保育・教職実践演習は、幼稚園教諭経験者や現職の幼稚園園長を中心とした教員チームが指導にあたる。学生はそれまでの実習経験を顧みながら模擬保育を実施し、学生相互に改善点や意見を出し合う。また幼児教育・保育を取り巻く社会的課題からテーマを選択し、グループによる調査、研究と発表を行うことで、保育者を目指す者としての知識や技量を高めている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：札幌国際大学札幌国際大学短期大学部 キャリアハンドブック 2024
- ・資料 2-2-2：アドバイザーマニュアル
- ・資料 2-2-3：卒業生の教員免許状取得の状況
- ・資料 2-2-4：卒業生の教員への就職状況

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

令和4年度の入学生から全学的に見直して編成した教育課程を実施している。各学科等においては、コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを編成し、令和2年度に本学で策定した教員育成像も踏まえている。また、情報機器に関する科目や教科指導法科目においては、ICT 機器の活用についても適切に指導している。全学的な公開授業の機会などでALやグループ・ワークが推奨されており、教職課程の各科目においても、普段から工夫してこれらに取り組んでいる。

現代文化学科は、令和4年度から国際教養学科へ名称変更し、併せてカリキュラム変更を行った。中学校教諭一種免許状（社会）及び高等学校教諭一種免許状（公民）の取得ができなくなったが、カリキュラムの適切な実施により、教職を志す学生の資質向上を引き続きはかっている。

心理学科子ども心理専攻は、幼稚園教諭、及び保育士の養成を行う部門であり、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の各指定科目を専攻専門科目の中に配置している。1、2年次には基礎科目のほか、幼児教育・保育施設等でフィールドワークを行う実践的科目を置き、子どもとの関わり方や観察の視点を養い、3年次の保育実習、4年次の幼稚園教育実習へと繋げる。また、3、4年次には応用科目を配置し、専門分野に於ける幅広い知識や技能の修得を可能としている。

〔長所・特色〕

臨床心理専攻の教育課程は、直接的には教職科目を配置していないが、編成・実施に関して情報の共有を受けている。

〔取り組み上の課題〕

学校におけるICT機器の活用の仕方の改善は日々進んでおり、そうした情報を常日頃から収集し適切に指導する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：2022 STUDY GUIDE

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

実践的指導力育成の場として主となる教育実習においては、協力校と連携し、具体的には研究授業を参観したり、研究協議に参加したりして、学生の教育実習の充実を図っている。中学校免許状取得に必要な介護等体験は科目として春学期設定しているが、実質的には介護等施設や特別支援学校への訪問が11月までかかるため、通年にわたる指導を行っている。また、地域の団体の要請に応じて地域の学校へ学生が行ってトピック的な授業を行うといった機会を得て実践的指導力の育成を図っている。

令和3年度から道教委で募集を開始した「草の根教育実習」事業に参加している。草の根教育実習とは、北海道の教員の魅力ややりがいの発見のために、へき地小規模校で3～5日間多様な教育活動を体験するもので、令和3年度は、エントリーしたもののコロナの影響で実現できなかったが、令和4年度は、人文学部心理学科臨床心理専攻2年の2名とスポーツ指導学科1年の4名の計6名が体験し、教職を目指す意識の涵養が図られた。

人文学部心理学科臨床心理専攻とスポーツ指導学科では、4年生の教職実践演習において、地域の高等学校の6校の定時制課程について予め調査して訪問の目的を設定し、最低4日間、授業補助や教員からの講話、体育大会の審判等様々な教育活動の体験等の学外フィールドワークを通じて教育実習や普段の学修から得られない定時制課程の生徒の実態や事情について理解を深める機会を設けている。

また、基準項目2-2でも取り上げたように、道教委職員による特別講義を実施し、教育委員会におけるICTの活用の取り組みの実際について学んでおり、次年度も道教委との組織的な連携協力体制を継続し、例えば次年度の新科目「ICTを活用した教育」において、講師として指導主事の派遣により最新情報を講義することで内諾を得ている。

現代文化学科では、直接的な結びつきはないものの、豊富なアクティブ・ラーニング、フィールドワーク、学修成果発表の機会を通じ、地域に根差しつつ他者との協働並びにコミュニケーション能力の涵養をはかっている。

心理学科子ども心理専攻は、1年次から保育や療育施設、子ども向けイベント等へのボランティア参加を義務づける科目があり、参加後は記録を提出し、その都度担当教員の指導を受ける。また心理学科が主催し、専攻の学生が中心となって、実際の企画・運営から遊びの提案、安全確保等を行う子育て支援企画を年に8回行っている。基本的に学生は自由参加だが、授業の一環としてゼミ等で参加し、遊びを企画する場合もある。このほか正課以外に、夏期、冬期休業期間、近隣の子どもたちを対象とし、本学の自然豊かなキャンパスで、各季節の遊びを体験する企画を毎年行っている。この企画は子ども心理専攻教員主導のもと、専攻学生が中心となって、企画や設営、実際の子どもたちへの対応などを行っている。

大学院スポーツ健康指導研究科では、「ジュニアスポーツ演習」において、美唄市や北海道体育協会が主催するジュニアスポーツ活動に参加し、演習形式で学修している。

〔長所・特色〕

臨床心理専攻では、心理学的な実践能力や技能を身に付けるための演習や、実際に地域との繋がりの中でその能力や技能を活かす実習やゼミ活動が豊富にある。心理学的支援の必要な児童が在籍する施設や、児童心理を専門とするゼミ活動を通して、様々な人の立場

や背景を理解した上での人間関係の構築と他者との共同に力を入れている。また、地域と関わりながら現場で起こっている問題を心理学的な観点から捉え、共同して課題に取り組む姿勢を育成している。

〔取り組み上の課題〕

教職実践演習における高等学校定時制課程での学外フィールドワークは一定の成果が得られている。しかしながら、数年間このスタイルで取り組んできたことから、その内容の再構築の必要性がないかという点と、実施した際の指導力に関する事項の4項目の評価の妥当性について検討が必要となっている。なお、「指導力に関する事項の4項目」とは、中央教育審議会による平成18年7月11日付け「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」の別添1「教職実践演習(仮称)について」において取り上げた「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等」のことである。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1 : 2022 STUDY GUIDE
- ・資料3-2-2 : 札幌国際大学HP

Ⅲ. 総合評価

本学における教職課程教育は、教育理念を踏まえ、教職課程を有する学科等において定めたDPをはじめとする方針に基づき実施している。教職課程の履修に関する事務は教務課が行うとともに、教職課程の改善・充実に積極的に取り組み、質の向上や体制強化のために教職課程委員会を設置し、教職課程の自己点検・評価についても教職課程委員会が進めている。その際、学内の他組織との連携を図り、教職課程の自己点検評価は、全学的な自己点検・評価とは別に進めることで整理された。時期的な要因のために今年度はできなかったが、本学の教員育成像を本学のDPの改訂と北海道教育委員会の教員育成像の改訂を受けて次年度改訂する必要がある、改訂された際には年度途中であっても学生に示す必要がある。

全学的な自己点検・評価は新年度になってからの完成となるため、令和4年度は教職課程の自己点検・評価とは時間的なずれがある。これは、全学的な自己点検・評価はいつも春学期の途中に完成となるが、文科省の通知により、教職課程の自己点検・評価報告書は、令和4年度中に公表することとなっているためである。今後はこのずれを解消し、全学的な自己点検・評価とよりよい連携をとることが望ましい。

令和3年度以前の入学者で、中学校教諭一種免許状（社会）または高等学校教諭一種免許状（公民）の取得希望者が、もし単位を修得できなかった場合、どのように対処するかが課題である。

学校におけるICT機器の活用の仕方の改善は日々進んでおり、そうした情報を常日頃から収集し、適切に指導する必要がある。

教職実践演習は、成果はあるが、現在の形を数年間続けてきたことから、改めてその内容や評価の妥当性について検討する必要がある。

今日の学校教育を取り巻く環境の激しい変化に対応し、「令和の日本型学校教育」を担うにふさわしい教員の養成のため教職課程の改善・充実に取り組んでいるが、今後もさらなる質の向上を図っていく。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程自己点検・評価について、令和3年度の教授会において3回説明し、学内の周知に努めてきた。令和4年度は、学内の自己点検・評価委員会に本学の自己点検・評価と教職課程自己点検・評価との関連や教職課程自己点検・評価の進め方について確認し、「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」（以下、報告書という）は教職課程委員会において作成を進め、学内の自己点検・評価委員会に対しては、完成した報告書を提出することとなった。

教職課程委員会においては、教職課程自己点検・評価と報告書の作成について具体的な作成スケジュールや作成方法・内容等について検討した。報告書は、大学・大学院で1つ、短大で1つそれぞれ作成することとした。作成に当たっては、執筆の分担を提案し、作業途中でも必要に応じて記載項目の絞り込みを行うなど、記載項目には検討を加え続けた。年度末のHPでの公表に向けて執筆原稿を取りまとめ、精査し、作成した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人札幌国際大学	
大学・学部名 札幌国際大学 人文学部・スポーツ人間学部 札幌国際大学大学院 スポーツ健康指導研究科	
学科・コース名 現代文化学科、心理学科臨床心理専攻、心理学科子ども心理専攻、スポーツ指導学科 スポーツ健康指導専攻	
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等	
① 昨年度卒業者数	現代文化学科 18名 心理学科臨床心理専攻 28名 心理学科子ども心理専攻 42名 スポーツ指導学科 74名 スポーツ健康指導専攻 3名 計 155名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	現代文化学科 14名 心理学科臨床心理専攻 20名 心理学科子ども心理専攻 36名 スポーツ指導学科 61名 スポーツ健康指導専攻 1名 計 132名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	現代文化学科 1名 心理学科臨床心理専攻 1名 心理学科子ども心理専攻 29名 スポーツ指導学科 24名 スポーツ健康指導専攻 0名 計 55名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)	現代文化学科 0名 心理学科臨床心理専攻 0名 心理学科子ども心理専攻 17名 スポーツ指導学科 6名 スポーツ健康指導専攻 0名 計 23名
④のうち、正規採用者数	現代文化学科 0名 心理学科臨床心理専攻 0名 心理学科子ども心理専攻 16名 スポーツ指導学科 1名

		スポーツ健康指導専攻		0名			
		計		17名			
④のうち、臨時的任用者数		現代文化学科		0名			
		心理学科臨床心理専攻		0名			
		心理学科子ども心理専攻		1名			
		スポーツ指導学科		5名			
		スポーツ健康指導専攻		0名			
		計		6名			
2 教員組織							
	教授	准教授	講師	助教			
教員数	現代文化学科	現代文化学科	現代文化学科	現代文化学科			
	5名	2名	2名	0名			
	心理学科	心理学科	心理学科	心理学科			
	臨床心理専攻	臨床心理専攻	臨床心理専攻	臨床心理専攻			
	5名	5名	0名	0名			
	心理学科	心理学科	心理学科	心理学科			
	子ども心理専攻	子ども心理専攻	子ども心理専攻	子ども心理専攻			
	6名	4名	2名	0名			
スポーツ指導学科	スポーツ指導学科	スポーツ指導学科	スポーツ指導学科				
11名	2名	1名	2名				
スポーツ健康指導専攻	スポーツ健康指導専攻	スポーツ健康指導専攻	スポーツ健康指導専攻				
7名	2名	0名	2名				
計	34名	計	15名	計	5名	計	4名

※スポーツ健康指導専攻の教員はスポーツ指導学科兼任